

第17回 びんご多文化共生連続ワークショップ

日時：2022年9月23日(金・祝) 13:00～16:00 (終了時間が早まる場合があります)

場所：福山市立大学1階 小講義室C

定員：70人(定員を超える場合は、市内在住の方優先で先着順とさせていただきます。)

参加費：無料(事前申込が必要です。) 申込締切：9月20日(火)

申込方法：つぎのURLもしくはQRコードからお申込みください。→

<https://bit.ly/3NkxZPd>

※感染症感染拡大防止対策のため、急速オンライン(ZOOM)開催への切り替えや中止/延期などの措置をとる場合があります。申込者は、開催前日に申し込み時に登録したメールアドレスをご確認ください。



多言語環境に育つ子どもの「ことば」を見る視点

「大人と違って、小さい子どもはすぐに日本語を覚えるから大丈夫。」「勉強は苦手みたいだけど、友だちと楽しそうに遊んでいるから問題ない。」なんて思っている人は少なくないと思います。本当にそうなのでしょうか？ 研究者であり実践者でもある講師の奥村さんから、多角的な視点で「ことば」について、丁寧にお話いただきます。対象の子どものまわりにいる大人の方や教育・保育関係者の方にお勧めです。



講師：おくむら やすこ
奥村 安寿子さん

【ご講演の概略】

子どもにとっての「ことば」は、単なるコミュニケーションの道具ではなく、人と人とを結びつけ、感情や社会性を育み、文化や経験の継承をもたらす、大切な媒体(もの)です。思考、学習、行動のコントロールといった、高度な活動や機能を支えるのも「ことば」です。

今回のワークショップでは、多言語環境にある子ども(幼児～小学校低学年)について、母語と日本語、生活言語と学習言語、発達障害などのテーマから「ことば」を観る視点を紹介し、子どもや保護者への実際の関わりを考えていきます。

〔講師プロフィール〕

東京大学大学院総合文化研究科特任研究員。教育学博士(北海道大学)。専門：特別支援教育、教育心理学、実験心理学。

中学～高校時代をアメリカで過ごした経験から、言語の認知と発達に興味を持ち、基礎と臨床の両面から研究を進めている。教育相談、心理アセスメント、学習指導などの実践も多く手がけ、2016年からは多言語環境で育つ子どもの発達・教育に関するメール相談(BM子ども相談室、相談員)に携わっている。

(参考 URL) BM子ども相談室

<https://www.bmcn-net.com/hotline>



後援：中国新聞備後本社、エフエムふくやま